

ミニテレ SSH1064JV・SSH2064JV

取扱説明書

無線遠隔制御装置「ミニテレ」をお買い上げいただきまして、誠に有難うございます。
製品をご使用する前に必ず本書をよくお読みのうえ、内容をご理解いただいてから正しくお使いください。

本書を、お読みになった後は、手元に大切に保管してください。本製品を譲渡する場合、必ず本書を添付して次の所有者にお渡しください。



警告表示

△は「警告表示」です。このシンボルは本機をご使用になる上で特に注意しなければならないことを表しています。
このシンボルがある場合は、特に注意深くメッセージを読み、記憶に留め、これらの指示に従ってください。
この取扱説明書には、本機についての「危険」「警告」「注意」の記述がなされています。この3つの意味を下記に示しますので、よく理解し指示に従ってください。



危険 「危険」は、取扱いを誤った場合に危険な状況が差し迫って起こり得て、死亡または、重傷を受ける可能性が想定される場合を示します。



警告 「警告」は、取扱いを誤った場合に危険な状況が起こり得て、死亡または、重傷を受ける可能性が想定される場合を示します。



注意 「注意」は、取扱いを誤った場合に危険な状況が起こり得て、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および、物的損害のみの発生が想定される場合を示します。

安全にご使用いただくために



●取扱説明書を必ず読む

取付け、使用開始前に必ず取扱説明書をお読みください。記載してある用法を守り、安全に使用してください。また、制御する機器に記載された安全対策や、安全規則と使用方法も遵守してください。



●複数台の使用に際して

無線システムを複数台使用する場合、**使用前に必ず目的の送信機であることを確認してください。**
誤って他の送信機を使用すると、目的外の機器が突然動作し危険です。



●思わぬ動作をした時

操作中に思わぬ動きが生じた時は、直ちに「切」スイッチを押してください。
「切」スイッチは無線システムの“緊急停止”の機能も併せ持っています。
また、思わぬ動きが生じた時は点検、整備を必ず実施し、原因を確認し対策してからご使用ください。



●使用しない時

操作しない時は、送信機と制御する機器の電源を必ず切ってください。うっかり送信機に触れた時、操作面を下にして置く、または送信機の上に物を置いた場合、操作スイッチが押され、思わぬ事故が発生する可能性があります危険です。



●送信機のお取り扱いおよび保管管理徹底

本製品は精密電子機器です。丁寧に扱ってください。
送信機を使用しない時は、必ず電源を切ってください。長期間保管(1ヶ月以上)する場合は、電池を外して保管してください。
<本機と予備送信機の同時操作禁止>
本機と予備の送信機を同時に操作すると意図しない動きをして危険です。予備機は勝手に操作できない様に、管理責任者を決め保管してください。



●操作面を改造しない

送信機の操作面に突起物をつける等の改造は行わないでください。
操作スイッチが不用意に押されると、制御する機器が予期せぬ動きをし、危険です。



●他の無線利用機器

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きた時は、下記の連絡先へお問い合わせください。

連絡先:株式会社 エニー 〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町337
TEL:044-932-4181(サービス課 直通) FAX:044-932-6370

1. 構成

開梱時に本書の構成一覧表をご覧になり、お手元の製品に間違いが無いか必ずご確認ください。

構成一覧

品名	型名	数量		備考
		SSH1064JV (予備送信機無)	SSH2064JV (予備送信機付)	
送信機	STH064V	1	2	
受信機	SRJ064V	1	1	
アンテナ	MEIWX-2411RSXX-2400	1	1	装着済
電池	単三アルカリ電池	1	2	
シリコンカバー	FPR-05	1	2	
操作名称シール	FMS-08	1	2	
ストラップ	FST-01	1	2	約 600mm
グリップタイ	GT-150-B	1	2	ストラップ取付け用
取扱説明書	Z0010-082B	1	1	本書

※仕様によっては構成が変わる場合があります、ご了承ください。

2. 送信機

制御する機器(クレーン・ジャッキ・シャッター等)の状況が把握でき、周囲の安全が確認できる場所で操作してください。予期せぬ事故が起こる場合があります危険です。



危険 (本機と予備送信機の同時操作禁止)

本機と予備の送信機を同時に操作すると目的の機械が意図しない動きをして危険です。絶対に行わないでください。

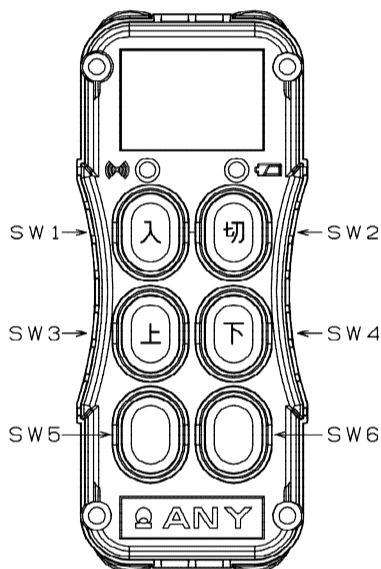
予備送信機は勝手に操作できない様に管理責任者を決め保管してください。

●送信機の使用環境

高温・腐食性ガス・油・薬品に触れる環境でのご使用は避けてください。これらの環境でのご使用は、製品の劣化を早め、故障の原因になります。

●送信機の表示ランプとスイッチ

送信機表示ランプ名称・機能について



名称	表記	ランプ色	備考
電源表示		赤点灯	送信機電源ON状態。
		緑点灯	受信機と通信状態(リンク状態)になると緑色に点灯。
		赤点滅	操作スイッチを押しながら「入」スイッチを押した場合、安全のため電入しません。操作スイッチから手を離し、改めて「入」スイッチを押してください。押していない場合は、操作部の故障が考えられます。
		緑/赤交互に点灯	電波状態が悪い状態です。
電圧低下表示		赤点滅	電池の残量が少なくなっています。

※電圧低下表示について:点滅を開始しても電源はすぐに切れませんが、危険ですので点滅を開始したら、新しい電池に交換してください。

スイッチ名称・機能について

(〔受信機出力端子と送信機操作スイッチ〕の項目を参照)

名称	備考
入(SW1)	送信機の電源を入れます。
切(SW2)	送信機の電源を切ります。
上(SW3)	スイッチを押している間、対応するリレーが動作します。
下(SW4)	
空白(SW5)	
空白(SW6)	

●電池の入れ方

右記写真のように、送信機底面蓋を開け極性(+/-)を確認し、電池を入れ、蓋を確実に閉めてください。

(シリコンカバーを装着したままでも可能です)



注意 電池を高温になる場所に放置、焼却などしないでください。

また、電池を分解・改造しないでください。



注意 蓋を確実に閉めてください。電池が外れ、意図せぬ動作をする恐れがあります。

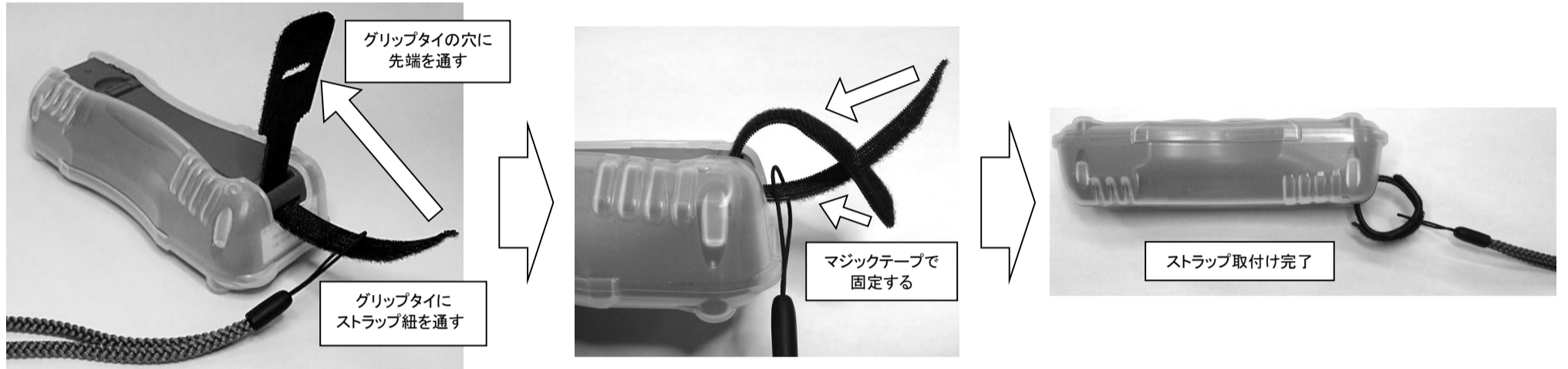
また、異物混入等により故障の恐れがあります。



注意 環境保全のため、使用済み電池は、地方自治体の法例、条例などに従って廃棄処理を行なってください。

●ストラップの取付け方法

1. 送信機、グリップタイ、ストラップを用意します。
2. 送信機のベルト通し穴にグリップタイを通します。
(ベルト通し穴は上下2箇所にあります。任意の方をご使用ください。)
3. 取り付けしたグリップタイにストラップ紐(細い方)を通します。
4. グリップタイの穴にグリップタイの先端を通します。
5. マジックテープで輪を作り、しっかりと固定します。



●操作名称変更

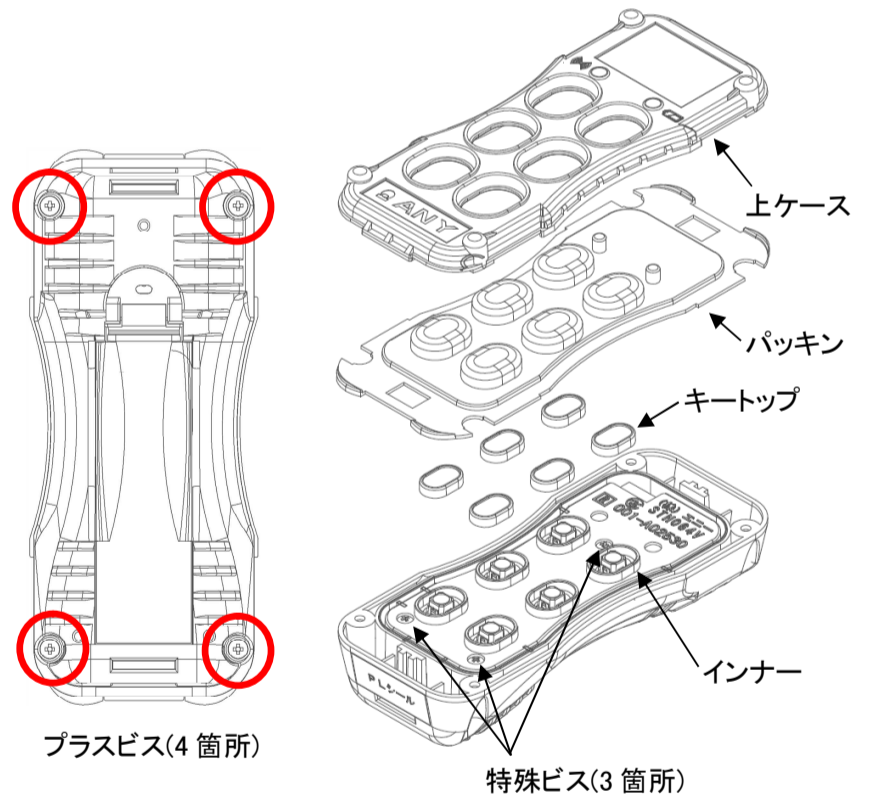
送信機の操作名称は、キートップのシールを貼り替えることで変更可能です。
お客様の責任で貼り替えてください。

● 注意点

- ・ 2. 4GHz帯高度化小電力データ通信システムとして技術基準適合証明を受けているため、**インナーの特殊ビスは絶対に外さないでください。**
お客様がこれを開け改造変更することは法律で禁止されています。
- ・ ケースを取り付けるプラスビスは「メック加工」のビスを使用しています。ビスの**着脱回数は2回まで**にしてください。何度も着脱しますと、メック加工の効力が失われます。
※メック加工：緩み止めの接着剤をコーティングしたビス。

● 送信機 操作名称変更手順

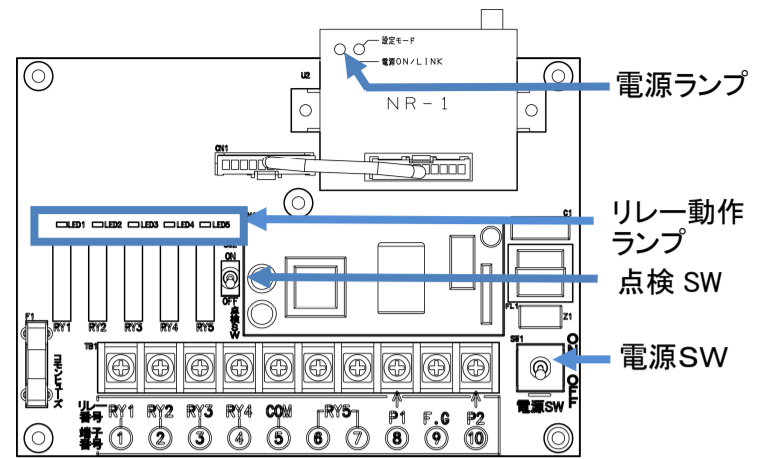
1. 電池蓋を開け、電池を取り外します。
2. 背面のプラスビス(4箇所)を外します。(適合ドライバーNo.1)
固く取り付けられているため、ビスをなめないようご注意ください。
3. 操作面を上向きにして、上ケースを持ち上げ、パッキンとキートップを取り外します。この際、外れたキートップを紛失しないようご注意ください。
4. キートップの操作名称シールを貼り替え、名称を変更します。
5. 名称変更したキートップを位置、向きに注意して取付けます。
その後、埃等の異物が混入しないよう注意しながら、パッキンを載せ、上ケースを閉じます。
6. ケースを裏向きにし、プラスビス(4箇所)を適正トルクで締めます。
防水・防塵性能を維持するため、対角締めで確実に取付けてください。
(締付けトルク:0.5N・m)
7. 電池を取付け、正常に動作する事を確認します。



3. 受信機

●受信機の表示ランプとスイッチ

名称	表記	機能	備考	
電源スイッチ	電源SW	ON	主電源を入れます。	
		OFF	主電源を切ります。	
点検スイッチ	点検SW	ON	リレーが動作します。	通常 ON でご使用ください。 OFF 時は無線システム動作確認用。
		OFF	リレーが動作しません。	
電源ランプ	電源 ON/LINK	緑	受信機の電源ON	待機状態。
		赤	送信機と通信している状態 (リンク状態)	
リレー動作ランプ	LED1~LED5	動作しているリレーのランプが点灯します。	無線システムの動作点検に利用。	



※ 電源ランプ横のディップスイッチは絶対に触らないでください。予期せぬ動きをし、危険です。

4. 設置



危険

設置作業は、感電や墜落の危険があります。機械と電気および無線システムのことを熟知した方が、慎重に作業してください。設置上のミスは重大な事故になり、危険です。



注意

設置する受信機が目的の製品であるか確認してください。特に電源の仕様が合っているか注意してください。間違った製品を取付けると、故障します。

●受信機取付け

- ・平坦で強固なところにケーブルを下にして取付けてください。
- ・電波を通さない金属ケースなどの内部に取り付けしないでください。操作ができなくなります。
- ※やむを得ず、金属ケースなどに収納する場合はオプション部品(FKV-18)を使用しアンテナを金属ケースの外へ取り付けてください。
- ・取付け穴を使用してしっかりと固定してください。
- ・高温、腐食性ガス・油・薬品に触れる環境でのご使用は、避けてください。故障の原因になります。
- ・電源電圧は仕様範囲内でご使用ください。
- ・過大な振動、ノイズがある環境でのご使用は避けてください。安全のために出力を停止する場合があります。

●配線

配線前のお願い

受信機配線の注意事項を説明します。出力端子図を参照してください。また、[2. 送信機]、[3. 受信機]の項目を確認し、使い方を理解して配線してください。



危険

配線作業は、必ず無給電状態で行なってください。感電の危険があります。また、配線は間違わないよう慎重に作業してください。配線上のミスは重大な事故になり、危険です。ご使用いただく線材の太さはケーブルメーカーの仕上がり外形をご確認ください。(推奨ケーブル 1.25 ~ 3.5 sq M4 端子)



危険

配線などで受信機の蓋を外した場合は、作業終了後に必ず閉めてください。異物等が浸入し、出力端子や基板上で異物によるショートなどが発生し思わぬ事故となる可能性があり、危険です。また、配線後は、異物がないか確認してから蓋を閉めてください。



危険

接続する負荷がリレー接点の規格内か確認してください。規格外の場合、制御不能となる可能性があり危険です。突入電流は負荷の定格の10~40倍になります。



危険

受信機出力リレー接点の規格を超える負荷を接続する場合や、インチャージなど使用頻度の高い場合には間接リレーを入れてご使用ください。そのまま使用すると接点の劣化により制御不能となる可能性があり危険です。



危険

リレーの寿命を超えてのご使用または過負荷でのご使用は、リレー接点の劣化により制御不能となる可能性があり危険です。負荷容量と使用頻度で寿命が決まります。規格内でもサージ未対策では、リレーの寿命が極端に短くなる場合があります。余裕のある組み合わせで制御してください。安全性に大きく影響するため定期的な点検・交換を行ってください。



警告

電気工事の免許が必要です。法律で罰せられるだけでなく、安全上問題があります。



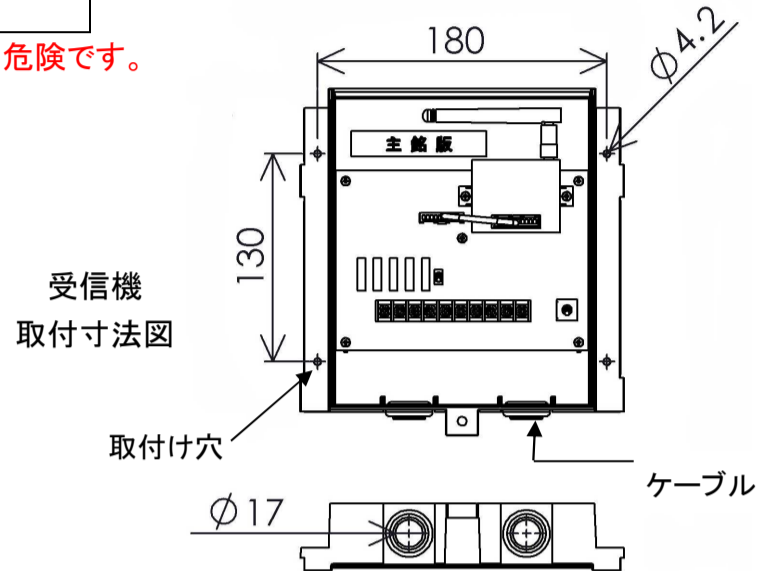
注意

配線時、内部の電子部品など配線に関係のない部品に触らないように注意してください。故障の原因になります。



注意

受信機の電源仕様に合致していることを確認してください。間違った仕様で接続すると危険です。



●リレーの負荷

制御出力は、リレーの1a接点です。この接点に接続される負荷により、接点の寿命が変わります。また、出力接点の規格を超える負荷は接続しないでください。制御不能となる可能性があり大変危険です。規格を超えるような場合は、間接リレーを入れるなどの処置が必要です。

リレー型名	最大開閉容量	備考
RB105-DBH (専用リレー)	AC250V 5A DC30V 5A	密閉型ソケット付

●リレー接点の寿命を延ばす

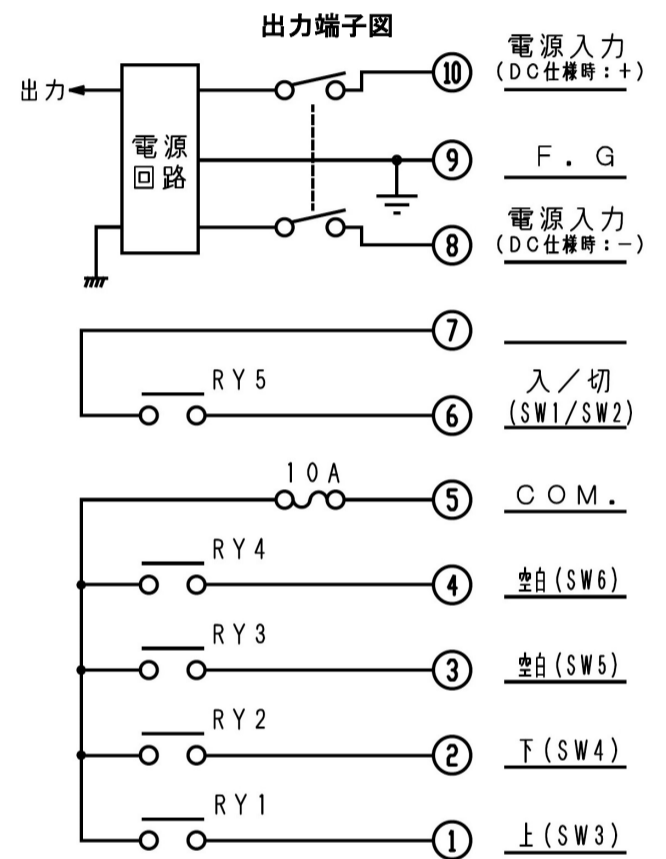
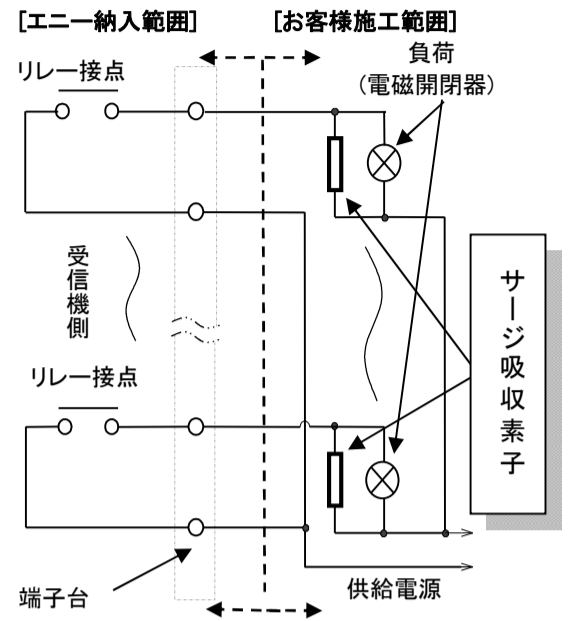
電磁開閉器などの誘導負荷を入り切りした時に生じる逆起電圧や突入電流は、定格の10~40倍になります。この逆起電圧や突入電流から接点を保護すると、接点寿命を延ばし、ノイズの軽減にもなります。電磁開閉器コイルに並列にサージ吸収素子を接続すると逆起電圧が低減され接点保護につながります。また、突入電流については、間接リレーを入れる等の対策を実施してください。

●電磁開閉器の逆起電圧によるリレー接点の故障

電磁開閉器にサージ保護対策が施されていない場合には、電磁開閉器メーカーの推奨品を必要に応じて取付けてください。**保護対策が施されずにご使用された場合、受信機側リレー接点が電磁開閉器のサージにより悪影響を受け、制御不能となる可能性があり大変危険です。**

●受信機出力端子と送信機操作スイッチ

端子番号	スイッチ名称	リレー名	備考
1-5	上(SW3)	RY1	操作中のみ動作する。
2-5	下(SW4)	RY2	操作中のみ動作する。
3-5	空白(SW5)	RY3	操作中のみ動作する。
4-5	空白(SW6)	RY4	操作中のみ動作する。
6-7	入(SW1)	RY5	入スイッチ操作時通信確立後、自己保持します。
	切(SW2)		また、送信機が通達範囲から外れると自己保持が解除されます。 切スイッチ操作後、自己保持が解除されます。
8	-	-	電源入力
9	-	-	フレームグランド
10	-	-	電源入力



インターロックについて

操作スイッチは相反インターロックが設定されています。相反インターロックとは、横並びの操作スイッチ(例えば「上」と「下」)が同時に押された場合に、操作用出力を開放して操作していない状態にする機能です。

●通信距離

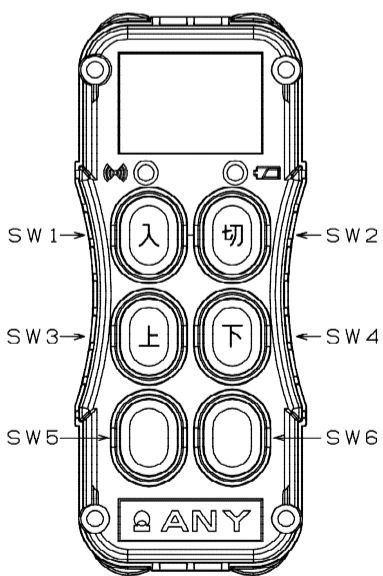
通信距離	備考
約50m	受信機見通し距離

警告 通信距離は、受信機の設置状態、建物、障害物、環境等で大きく変化します。設置時に通信範囲を確認しご使用ください。
通信範囲境界付近では、**電源表示ランプが緑/赤交互に点灯し、動作と停止を繰り返す場合があります。**

5. 基本操作

危険

操作を開始する前に、制御する機器周囲の安全確認を必ず行ってください。突然、電源を入れて操作を開始すると危険です。



1. 安全を確認し制御する機器の電源を入れます。
2. 送信機の「入」スイッチを押します。
3. 正常に送信機の電源が入ると「」電源表示が緑色に点灯します。
4. 電源表示が緑色点灯状態で操作スイッチを押すと対応するリレーが動作します。押し間違えのないよう、慎重に操作してください。
5. 操作を終了する時は、「切」スイッチを押してください。電源表示が消えて送信機の電源が切れます。
6. 操作が終了したら、制御する機器の電源を切ってください。

タイムアップ(オートパワーオフ)機能について

安全と省電力を目的に無操作時、自動で送信機の電源を切る機能です。送信機の電源を入れたまま、無操作状態が約10分続くと、送信機の電源を自動的に切ります。

危険

送信機を使用しない時は、電源を必ず切ってください。また、操作面を下に向けて置いたり、送信機の上に物を載せないでください。操作スイッチが押され、思わぬ事故が発生する可能性があり大変危険です。

危険

操作中に思わぬ動きをした時は、直ちに「切」スイッチを押してください。また、復旧してもそのまま使い続けしないでください。点検、整備を必ず実施し、原因を確認し対策してください。

電源表示が緑色点灯しない場合(この場合、通信しません)の処置法



- 電源表示が赤色点灯している場合
受信機に電源が供給されているかまたは受信機の電源スイッチがONしている事を確認してください。
- 電源表示が消灯している場合
送信機に電池が入っているか確認してください。電池が入っている場合は電池切れです。新しい電池へ交換してください。
- 電源表示が赤色点滅している場合
操作スイッチを押しながら「入」スイッチを押していませんか。押ししていない場合は、操作部の故障が考えられます。

6. 仕様

一般性能

項目	仕様
適用規格	ARIB STD-T66 準拠
使用温度	-10~60°C(電池の仕様除く)
保存温度	-20~70°C(電池の仕様除く)
無線周波数	2403~2480MHz
伝送方式	周波数ホッピング方式
変調方式・伝送速度	GFSK 250kbit/s

送信機機能

項目	仕様
操作スイッチ数	6 個
インターロック	「SW3 と SW4」同時操作を行った際、OFF する 「SW5 と SW6」も同様
トラブル検出機能	操作スイッチが押された状態で電入操作をしても電源表示 LED が赤点滅し、電入りしません(P.2 参照)
タイムアップ機能 (オートパワーオフ機能)	10 分
電源表示	 LED リンク状態: 緑、リンク断: 赤 (P.2 参照)
電圧低下表示	 LED 赤点滅 (1.05V 以下)

受信機機能

項目	仕様
出力リレー	RB105-DBH
出力接点	1a
出力リレー数	操作スイッチ出力 4 個、電源 ON1 個
リレー交換	ソケット式
出力回路	出力端子図参照
電源表示	LED リンク状態: 赤、リンク断: 緑 (P.4 参照)
リレー操作表示	LED 赤点灯
電源スイッチ	トグルスイッチ

7. 別売品

項目	型名	備考
シリコンカバー	FPR-05	
ハンドストラップ	FST-10	全長 約 550mm ポリプロベルト
ストラップ	FST-11	全長 約 1600mm ポリプロベルト
ストラップ	FST-01	全長 約 600mm
グリップタイ	GT-150-B	
アンテナ延長ケーブル(基台付)	FKV-18-2m	全長 約 2000mm
	FKV-18-5m	全長 約 5000mm
ヒューズ	10A	交換用
アクアパック	FAP-02	

送信機性能

項目	仕様
送信電力	1.4mW
使用時間	連続送信時約 100 時間(アルカリ乾電池)
外形寸法	57 × 137 × 31mm
重量	約 170g(電池・シリコンカバー含む)
電源	単 3 形乾電池 1 個 1.1~1.5V(ニッケル水素電池対応)
消費電流	20mA 以下
保護等級	IP6X 相当

受信機性能

項目	仕様
アンテナ	リバース SMA コネクタ 2.14dBi 以下 インピーダンス 50Ω
重量	約 700g
外形寸法	208 × 221 × 44 (mm) (突起部含まず)
定格通電電流	5A AC250V (抵抗負荷)
出力端子耐圧	各出力端子-AC 入力 AC2000V(1 分間)
出力端子絶縁抵抗	各出力端子間 100MΩ 以上 (DC500V)
電源	AC100V/200V/220V±10% または DC12V/24V±10%
消費電力	AC 時 10VA 以下 DC 時 5W 以下
保護等級	IP42 相当

8. 保守点検

● 送信機の点検

始業前点検(始業前点検を必ず以下の手順で実施してください)

- ・ 送信機の電源を入れて、電圧低下表示 LED が点滅しないことを確認してください。点滅を開始したら新しい電池に交換してください。
- ・ 最近の動作で、異常を感じたことがありますか？確認してください。
- ・ 制御する機器の点検や保守は万全ですか？確認してください。
- ・ 送信機のケースが破損していないか、操作部に異常がないか確認してください。破損している場合は使用を中止してください。
- ・ 制御する機器の周囲の安全を確認してください。
- ・ 受信機と制御する機器の電源を入れて異常がなければ送信機の電源を入れます。
- ・ 空荷状態で「上」のスイッチを押してください。機器が上方に動作すること。その他のスイッチについても同様に確認してください。異常がある場合は直ちに使用を中止してください。
- ・ すべての操作を確認できたら、点検完了です。作業を開始してください。

● 送信機の点検

- ・ 受信機と制御する機器の電源を切ってください。(確認してください)
- ・ 「入」のスイッチを押し電源表示ランプが点灯することを確認します。
- ・ 「切」のスイッチを押します。
- ・ 操作スイッチを押しながら「入」スイッチを押してください。異常検出機能が働き電源表示ランプが点滅し電源が入りません。

● 受信機の点検

- ・ 受信機の点検を行う時は、制御する機器および送信機の電源を切ってから点検を行ってください。予期せぬ動きをする可能性があります。大変危険です。
- ・ 受信機のフタを、落下しないように注意して開けます。
- ・ 受信機の主電源が切れていることを確認してください。
- ・ 配線のネジの緩みや配線部分の短絡、水や異物の浸入がないか確認します。
- ・ 受信機の点検スイッチを“OFF”側にしてください。
- ・ 制御する機器の主電源を ON にし、受信機の電源表示ランプの点灯(緑色)を確認します。
- ・ 受信機から 1m 以上離れて、送信機の電源を入れます。
- ・ 送信機の操作スイッチを押します。操作に対応した動作ランプが点灯します。
- ・ 送信機の電源を切ります。
- ・ 受信機の動作ランプが全て消灯していることを確認してください。
- ・ 制御する機器の主電源を切り、点検スイッチを“ON”側にし、受信機のフタをし、確実に閉めてください。
- ・ すべての操作を確認できたら、点検完了です、制御する機器の電源を入れ、作業を進めてください。

● 消耗品

項目	型名	交換基準	備考
シリコンカバー	FPR-05	1年	使用頻度・環境により変わります。傷・汚れを確認し、交換してください。
ストラップ	FST-01	1年	使用頻度・環境により変わります。傷・汚れを確認し、交換してください。
グリップタイ	GT-150-B	1年	使用頻度・環境により変わります。傷・汚れを確認し、交換してください。
リレー	RB105-DBH	負荷により 変わります	リレーは専用リレーです。汎用リレーなどを使用した場合は保証できませんので、ご注意願います。

9. アフターサービス

無料保証期間 ご購入より1年

無料保証期間中の故障について

販売店または、弊社までご連絡ください。

但し、無料保証期間中でも下記項目に該当する故障の場合は有料になりますのでご了承ください。

1. 落下、操作上のミス、誤使用など使用者の責任と見なされる故障および破損
2. 改造および、弊社の推奨する部品以外を使用して生じた故障および破損
3. 火災、自然災害(地震、水害、雷など)による故障および破損
4. 弊社のエンジニアまたは、弊社が認めたエンジニア以外の方による修理作業が行なわれた場合
5. 適切な保守点検を怠っての使用による故障および破損
6. 内部に浸水の痕跡が認められる故障および破損
7. 規格を超える環境での使用が認められる故障および破損
8. お求め後、設置場所の移動時に生じた故障および破損
9. お引き渡し時点での科学技術水準では予見されなかった故障および破損



安全に関するご注意

1. 本製品は日本国内の電波法に準拠しています。国外使用の際、当該国電波法等関連法の遵守を保証するものではありません。国外でのご使用は弊社窓口にご相談ください。
2. 製品品質および信頼性向上に努めておりますが、思いがけない故障が発生し、使用条件によっては誤動作の可能性があります。耐放射線設計は行っておりません。製品の故障または誤動作が生じた場合も、事故、火災、その他損害等を生じさせないようお客様の責任において対策設計して頂き、システムとしての安全検証をお願い致します。
3. 製品の使用および使用不能から生ずる二次的損害(遺失利益、事業の中断、他の機器や部品に対する損傷、情報の損失またはその他の金銭的損害を含む)に関し、その負担を致しません。
4. 設計時での技術水準では、予見出来ない故障または損傷については免責とさせていただきます。
5. 本書の記載内容は発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。ご購入およびご使用にあたり、事前に弊社営業窓口へ最新の情報をご確認頂きますようお願いいたします。
6. 本書の全部または一部を、弊社の事前承諾を得ることなく、転載、複製することをお断り致します。
7. 本書に関するお問い合わせ、その他お気づきの点等ございましたら弊社営業窓口までご照会ください。

●本取扱説明書の製品仕様は、予告なしに変更する場合がございますのでご了承ください。

●本取扱説明書の記載内容は2019年11月現在のものです。

Z0010-082D



株式会社 **イニー**

本社 〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町337

TEL:044-932-4411(代) FAX:044-932-6370

関西営業所 〒532-0028 大阪府大阪市淀川区十三元今里1-8-32-301

TEL:06-6307-3633(代) FAX:06-6307-3659